

かわら版

(新春号 NO 2) 2012/01/01 発行

年二回発行(1・7月)

下関市立大学落語研究会 OB 会発行

電子版の扱いですので購読のためには

メールアドレスが必要となります。

編集長 西川 隆喜

日本復興 2012・東北に元気と勇気と笑顔を!



関門橋(壇ノ浦パーキングより)



赤間神宮(鳥居と水天門)

【2012 年頭挨拶】

新年明けましておめでとうございます。

落研 OB 並びに現役部員の皆様におかれましては恙無く新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年はまさに波乱の一年でしたね。景気・雇用問題、年金問題、教育問題、食の安全の問題、東日本大震災・福島原発問題など、難問が山積している中、昨年6月11日に落研創部40周年記念OB会が川棚温泉で開催されました。とても50代後半から還暦直前の年寄りの集まりとは思われないほどパワフルで、馬鹿馬鹿しくも楽しい、大いに盛り上がったOB会でした。参加されましたOB各位の昔と変わらぬ元気でひょうきんな姿に接し、たくさん「元気」を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

その後、10月7日に大阪・梅田秋の陣(金艶さんと朗志さん)12月12日に東京・銀座冬の陣(金艶さんと好志さん)と二度にわたり旨い酒を飲む機会に恵まれました。大いに語り、大いに飲み、大いにハシャギました。会えばたちま

ちの内に学生の頃に戻ってしまう「落研の魔力？」・・・とても素晴らしいと思います。また再会出来る日迄お元気でお過ごしください。この新しい年が皆様にとってよりよき年になるよう心より祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。（花見亭 笑仲: 森長 武 S51 卒）



(笑仲爺さんと初孫の創太君)

指名手配 (赤子誘拐犯)

- ・ 笑仲こと 森長 武
- ・ 年齢 58歳(若づくり)
- ・ 時として眼鏡、口ひげ等を用い変装することあり
- ・ 広島市出身にて狂暴
- ・ 歓楽街、野球場に出没

落研が『仲良しクラブ』から『組織化された団体』として認知されて行く過程でキーマンとなった人、同学年で4人いた部員で『追い出し寄席』に出演した部員は僅か2名(本人と福岡在住の晋平さん)であった。脳天気な4年生5人と1年生部員の『突き上げ』によく耐えた。アルバイトと安アパートの一室のサイフォンから漏れる『かすかな苦みを含んだコーヒーの香り』が濃厚に記憶として残っている。時代が流れ今や『孫に頼ずりをする爺』となった。西明石で手広く『学習塾』を経営する塾長さん、『孫が成人する』まで頑張ってください! (編集部)

【市大時代の回想】

戦後の高度成長期に中学・高校生であった我々の世代は、親も学校の先生も含め社会全体が『高学歴が幸福への試金石』であるような風潮が大いにあった。私自身も何の疑問も抱くことなく大学へと進んだ。そして、卒業し結婚後はひたすら家族のために働き、気がつくと二人の娘もそれぞれに嫁ぎ、今は結婚した頃のように家内と二人で暮らすようになっていく。変わったことといえば年を取ったことぐらいであろう。11月に『かわら版新春号』の原稿依頼を受けた

ので、当時を振り返りながら思いだしたことを、38年前の昭和48年4月から年次ごとに以下の通りまとめてみることにした。OBの皆さんも登場していますので、その当時のことを思い出し共有して頂ければ幸いです。

1年生

1. 新歓迎コンパでどんぶり酒をのみ便所で便器をかかえ寝てしまう。
2. 夏休み実家で落語の練習をしていたら親父から誰か来ているかと間違われたこと
3. オマリー先生、三重県小俣町青山家に宿泊「近所のおばさん外人きたと大騒ぎになる」
4. 馬関寄席出演「七度狐」を演ずる。
5. 馬関寄席のチケット売上の個人別売り上げ実績表が部室に掲示される。(ノルマ) 売れなければ、3000円自腹を切る人も

2年生

1. フォークソング部のコンサートに特別出演「崇徳院」結構受ける。
2. 北九州落語長屋にて三遊亭円窓の前座で出演「崇徳院」NHKより呼び出しがかかり「こんばんわ北九州」に山本リンダと共演する演題「時うどん」出演料約6,000円は部費に入金 リンダのお尻は小さかった。
3. 笑仲さん、酒に酔い、スナックの便器を割る。

3年生

1. 勉強もせず、目だった活躍もなし
2. 九落連 熊本にて「佐々木政談」(金艶さんが48年 長崎でも演じる)で出演

4年生

1. 会社訪問で朗志の金融機関総なめの快進撃にあせりを覚える
 2. 追い出し寄席「百年目」
- *卒業後、東急観光で、24年11ヶ月勤め、コングレで8年、1年半の農業研修、現在、コングレに戻り、東京で妻と2人で住んでおります。娘2人は結婚をし初孫が出来るのを待っている今日この頃です。添付で娘夫婦との写真を送ります。来年は、いつ同窓会をしますか？ 馬関荘でどうでしょうか？朗志さん計画してください。(あばら家 好志: 青山 剛三 S52 卒)



(長女夫婦と「九重“夢”大吊橋」にて)



(二女夫婦と「九重“夢”大吊橋」にて)

三重県屈指の名門伊勢高校の出身、伊勢神宮のおひざ元で三人兄弟の三男坊として育った。お母さんが夫婦岩のある二見町の出身で、とても働きものであった。僧籍を持つお父さんは単身赴任の名古屋から週末には自宅に帰り家族で農業をしていた。落研では笑仲さんの後に会長となり、もっぱらクラブ活動の調整役を務めた。また、校内はもちろん他大学との合同寄席には大学代表として自信を持って送り出すことができた人材でもあった。編集長である私の愛すべき同期である。唯一の難点は、宴会要員としての持ちネタがなかったことか？写真で見る奥さんは娘さんより綺麗だ！御夫婦仲良くお幸せに!! (編集部)

【徒然草】

(その2:笑仲氏を語る)

下関市立大学十三期入学生は200人くらいだったと思う。うち女子が1割強。狭い学内でいやでも目立ってしまう。容姿が良く顔が可愛い女子は大事にされるが、それ以外は「なんで女が経済学部なんかくるんだ!？」と面と向かって言われる。勉強しに来てるのに外見なんか関係ないでしょ!と言うとブスのヒガミに聞こえる。大学に入って外見のことが重要だと気付いた。気付いたときは遅かった。当時の自分にとっては

全く面白くない。だからどうしても休み時間になると、あの階段を急ぎ足で登って落研の部室へ直行する。

階段をのぼる前から部室内の“バカ笑い声”が聞こえてくる。部室内は煙草の煙がもうもうと立ち込め(全員吸ってましたね)私には意味不明な内容もあったがとにかく可笑しかった。笑ってばかりいたように思う。(今から思うと何も知らなかったのに落研というすばらしい環境のなかで、若い男の生態の一端を垣間見ることができたのは とても感謝しています！)

しかし、会長の笑仲氏は恐かった。よく叱られた。部員の中でも同級生は学年が同じという気安さから仲間という感じで気が許せた。1つ上の朗志さん好志さん遊狂さんは馴染めるお兄さんという感じで頼りになった。(私の実家が農家でなくても) 2学年上になると安易に口をきけない。(ましてや、はや、社会人になられた五大老の方々はまさに天上人、私にとっては落研創設の伝説のお方々。神にも匹敵するくらいでした。)そうはいっても晋平さんは優しかった。が、どうしても距離をおいてしまう。私の家族が母と妹の3人家族。高校も女子校で男子の免疫がなかったということもあるが、全く世間知らずで無知だったと思う。そして鈍感だった。笑仲氏を見るに見かねていろいろ苦言を呈してくれた。そういったことは卒業して就職して 本当に役にたった。いまどきの子だったら「うざい」と片付けられるだろうが、落研で先輩や時には同級生から言われたことが後になってわかってきたことが多々ある。

ある日、笑仲氏の下宿に行って説教を頂戴するハメになった。大学町の今ロイヤルホストのある裏の辺りにあった狭くて汚い下宿。当時どの下宿もみんなウナギの寝床みたいに細長く入り口にトイレがあって臭かった。狭い部屋に正座して「お前は男の心を解っていない！」(なんか某先輩の気持ちを考えずけけけ言っちゃったみたいなんですよ、で、説教されたんです) サイホンで入れたコーヒーをいただいた。がやっぱりその時もなんで笑仲さんが怒ってるのか解らずじまい。

暖簾に腕通し、私の反応が悪かったんだと思う。笑仲氏は井上陽水のLPをかけた。(学生だけどオーディオ機器を持ってらっしゃったんですね)『能古島の初恋』 陽水ワールドに浸って陽水の生い立ちから彼の学生時代の挫折、そして音楽活動にいたる現在までの軌跡を能弁に語ってくれた。(『鹿政談』と匹敵するくらいよく覚えてます) う〜ん、けどやっぱり陽水の良さも当時は解らずじまい。

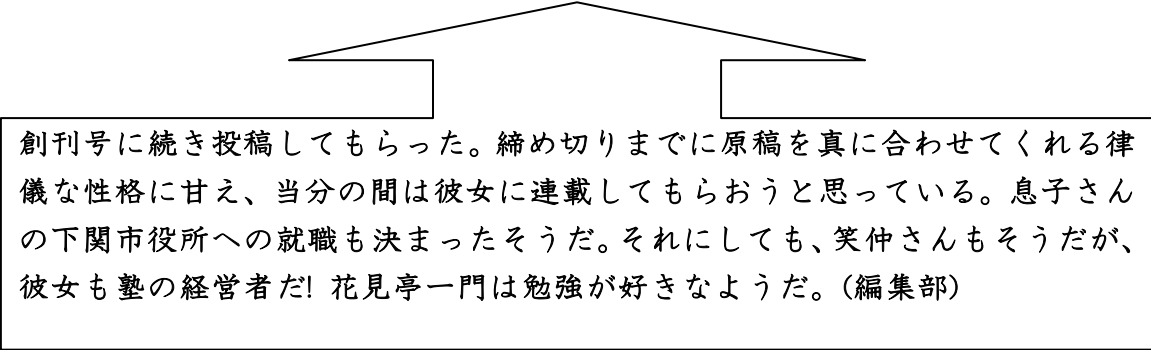
しかし、一生懸命に落研の活動に取り組んでいる熱意は痛いほど感じた。それはみんな同様だったと思う。表現の差こそあれ、バカ話をしても、みんな本気で熱中していた。単純だけど熱中している仲間のなかにいることは快感だった。(一番不真面目なのは私だったかもしれませんが) その快感はやはり学生時代

でしか味わえない。時々 蚊帳の外に置かれたような疎外感を味わうこともあったが、笑仲氏は極力みんなと同等に扱ってくれた。当時は厳しいとしか理解できなかったがそれも優しさなんだとわかったのは卒業して随分たってから。

大学での経験がじんわりしみてくるのには時間を要したがけっこういい味をだすようになったと思う。

今年は 皆様のところへお邪魔したいと思います。どうぞよろしく。2012年が皆様にとって良い年になりますように！

(花見亭 たゆう: 千葉 里美 S53 卒)



創刊号に続き投稿してもらった。締め切りまでに原稿を真に合わせてくれる律儀な性格に甘え、当分の間は彼女に連載してもらおうと思っている。息子さんの下関市役所への就職も決まったそうだ。それにしても、笑仲さんもそうだが、彼女も塾の経営者だ! 花見亭一門は勉強が好きなようだ。(編集部)

【今を生きる】

御久し振りです。現在、単身赴任(といっても自宅へは2時間弱で帰れる)で日々気楽に過ごしております。昨今の私は自分ではまだまだと思っておりましたが、ど近眼なのに新聞を読むときには老眼をかけ、さらに老いが進んだのか飛蚊症になり、左膝の調子も悪い。あぁー情けない。

ところで我が家の今年の最大の話題は、愛犬「クー」(シーズ)が10歳の若さで他界したこと。急性白血病で何と輸血を2回と抗生物質で治療しましたが、治療の甲斐も無く発症後3ヶ月7月19日に永眠、多額の治療費をかけたのに……。犬だけが我が家の絆だったのに。家に帰っても玄関に出てくるのは「クー」だけ。私の一番の家族でした。実はもう一匹娘がどこからか貰ってきた「エアロ」(チワワ)がいて、これが小生にはなつかず、家に帰るとワンワンと吼えやがる。なんちゅう犬や! ただ飯食わせてるのに!(嫁さんと娘にはよくなついている、どういうことや!)

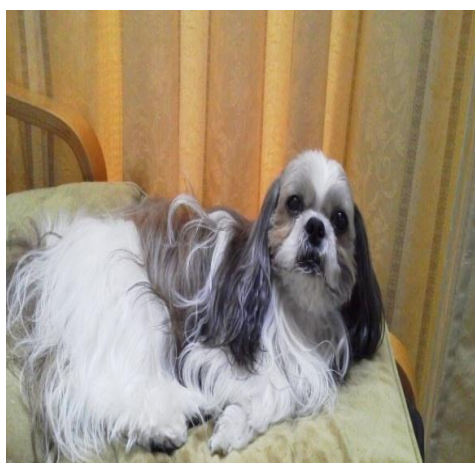
さて、私の仕事のことですが、スーパー・イズミヤは55歳で役職定年、現在56歳の私は1年契約で特別職として現在の職位で仕事しています。55歳を越えているので退職金(ポイント制)は昨年2月末で確定しているので、60歳までイズミヤで勤務しても55歳の時と同額。小売業は業界全体不振で当社も御他聞に洩れず管理職のボーナスは減額がここ数年続いて最盛期の半額以下まで下げられる始末。もうすぐ今年の辞令が発令され、更に1年更新して現在の職位で仕

事をするか、それとも特別職を解かれ降格になるか、それとも子会社に転籍するか運命の年になりそう。転籍になれば、会社都合となり退職金満額が貰えるのだが。そうなったら、ぱぁっと大散財をしようかな・・・と考えている今日この頃です。ただ嫁さんには「家に帰ってくな! そのまま単身赴任していきなれ!」などと懇願される始末、残った犬にもそっぽをむかれ。どうすれば家族に御満足して頂けるのでしょうか?・・・?

今の私の心境はそんなところでしょうか。まゝ昨年は結婚式と偽り参加したOB会から早くも7ヶ月が過ぎ機会があれば、今度も誰か身内を殺して参加したいと思っています。

最後に本年も皆様OBの方々、ご家族の皆様方が御健勝で過ごされますことお祈りし又の再会を期待して近況報告を終わります。

(花見亭 呂久笑: 幸本 秀哉 S53 卒)



(今は亡き愛犬クー)

昭和 51 年度の全九州学生落語連盟(現在は消滅している)の執行委員長、同年、12 月に下関市文化会館で『九落連』寄席が開催された。組織の長という経験が、イズミヤ入社後も永らく人事部に身を委ねることとなる。ド近眼で『牛乳瓶の蓋』のような眼鏡をかけていた。そういえば彼と晋平さんは『下関競艇場』へ通っていた。「ペラを叩く」等の専門用語も部室ではやっていた。ご両親は既に他界され、出身地の宮崎に帰ることもめっきり減ったということだ。島根出身の奥さんと息子さん娘さん、そして嫌いな犬一匹と奈良市在住である。(編集部)

【かけ橋(市大落研情報)】

①会長が吉村直記(3年生・福井県出身)さんから同じく3年生の坂本久(国際商学科・広島県出身)さんに変更しました。

※クラブ役員の年季は現在、前期・後期の2期制になっているとのことであった。

②『追い出し寄席』は1月14日(土)下関市勤労福祉会館(下関市幸町)で開催される。開場はAM10:30、開演はAM11:00から、4年生10名が出演予定。

【編集後記】

三年に亘りNHKで放送された『坂の上の雲』が、昨年末で最終章『日本海海戦』で幕を閉じた。当時、大国ロシアを青色吐息ではあったが打ち破ったアジアの小国日本の存在は、大航海時代から始まり近代帝国主義に至る、いわゆる欧米列強諸国によるその後の植民地支配に少なからず影響をもたらした。インドをはじめアジアの多くの国々の独立運動に大きな勇気を与えた。そして、欧米諸国は近代国家として半世紀もたたずして黄色人種が白人に勝利したことに驚嘆した。

いずれにせよ、『ポーツマス条約』においては戦勝国としての十分な『補償金』を得ることはできず、多くの日本人の命を引き換えにその後列強諸国への仲間入りを果たしていくことになる。原作者の司馬遼太郎は恐らく、幕末から明治、特に日露戦争に勝利するまでの日本人一人一人の生きざまに『日本人の原点』を感じ取っていたのではなかろうか。

さて、日本は先の大戦の敗戦から今年67年目を迎えます。戦後生まれの人たちも現役を退職してきています。我々を含め50歳以上の日本人に対して戦後の義務教育は『知識』と『体育』については凡そその効果をもたらすことができましたが、国の形や国家観を含め根っことなるべき『徳育』については、敗戦の呪縛から抜けきれないままほとんど無視され続けてきました。結果、政治家・財界人・官僚・教育者・我々のほとんどが『志』のかけらも感じることができない日本人となってしまいました。そしてただひたすら、既得権益の中に埋没して生きてきました。かような日本という国は間違いなくほとんど絶望的な状況です。どうか、まずOBの皆さんにこそ日本人の心である『真心』を取り戻して頂きたいのです。そして、孫には『夢』ではなく『志の心』を持ってと耳にたこができるまで言い続けてほしいのです。そして、子どもには『他者のために生きる』ことが『自己実現』への最も近道であることを嫌われても言い続けてほしいと思います。世のため人のためにあなたがなすことができる善行を残された人生において行ってください! 新年を迎えるにあたり心から『真心』をお届けします。